

中長期視点からの 会計人材の育成に向けて



ASBJ 副委員長 あらい たけひろ
新井 武広

1 はじめに

金融資本市場のグローバル化に対応して、リーマン・ショック後に開催されたG20首脳会議の首脳声明では継続して1組の高品質でグローバルな会計基準の構築に向けた取組みを強化することが提言されている。

我が国では、2009年6月に企業会計審議会から公表された「我が国における国際会計基準の取扱いに関する意見書（中間報告）」を受け、2010年3月期から一定の要件を満たした上場会社の連結財務諸表に国際財務報告基準（IFRS）の任意適用が始まっている。IFRSの適用に伴い、日本基準の開発に加え、国際的な会計基準開発への貢献も重要な柱となっており、国際舞台で我が国の存在感を示すとともに、我が国の状況も踏まえた国際的な基準開発を求めていくことが、ますます重要な施策となってきた。これに対応するためには、我が国から質の高い意見発信を行うとともに、国際会計基準審議会（IASB）のボードメンバーや国際財務報告基準解釈指針委員会（IFRS解釈指針委員会）、国際財務報告基準諮問会議（IFRS諮問会議）をはじめとしたさまざまな組織や会議体のメンバーに優秀な人材を継続的に送る取組みを強化する必要がある。

2 現 状

現在、我が国から国際財務報告基準財団（IFRS財団）等に参加している方々は、次頁の図表1のとおりであり、IFRS財団のTrusteeメンバーやIASBのボードメンバーをはじめ、国際的な会計基準開発の場にさまざまな形で関与している。

海外に目を向けるとアジア諸国においては、国際的な発言力の強化に向け、IFRS財団のTrusteeやIASBのボードメンバーなどのポストを確保すべく、さまざまな取組みが行われている模様である。

翻って、我が国の現状をみると、残念ながら中長期的な視点からの会計人材、特に国際的な会計人材の育成に関する戦略が明確ではなく、各市場関係者における現場での教育（OJT及び各社の研修プログラム）に委ねられている状況にあるといわざるを得ず、海外の動向を座して傍観しているわけにはいかなないと考えられる。

3 今後の会計人材育成戦略

中国、インド、香港だけでなく、韓国、シンガポール、マレーシアなどのアジア諸国の台頭

(図表 1) IFRS 財団等への日本からの参加者

(2011 年 8 月末現在、敬称略)

| 組 織 | 氏 名 | 所 属 | 備 考 |
|--|-----------|------------------------------------|---------------------------------------|
| IFRS 財団 Trustees (評議員会) | 藤 沼 亜 起 | 日本公認会計士協会 会長 (元) | 副議長 |
| | 島 崎 憲 明 | 住友商事 特別顧問 | |
| IASB Board (審議会) | 鷺 地 隆 継 | 住友商事 フィナンシャルリソースズグループ 長補佐 (前) | |
| IFRS 解釈指針委員 会 | 湯 浅 一 生 | 富士通 財務経理本部 IFRS 推進室 室長 | |
| IFRS Advisory Coun- cil (IFRS 基準諮問 会議) | 米 家 正 三 | 伊藤忠商事 常勤監査役 | |
| | 金 子 誠 一 | 日本証券アナリスト協会 参与 教育第二企画部長 | |
| | 金 融 庁 | オブザーバー | |
| FCAG (金融危機ア ドバイザリー・グル ープ) | 橋 本 徹 | 日本政策投資銀行 代表取締役社長 | |
| | 稲 葉 延 雄 | 日本銀行 理事 (前) / リコー 取締役 | |
| | 金 融 庁 | オブザーバー | |
| GPF (世界作成者フォー ラム) | 山 田 浩 史 | パナソニック 理事・東京支社経理グループグ ループマネージャー | (予定) |
| | 石 黒 徹 次 郎 | 三井物産 経理部会計基準室室長代理 | |
| CMAC (資本市場諮 問委員会) | 金 子 誠 一 | 日本証券アナリスト協会 参与 教育第二企画部長 | |
| 従業員給付ワーキ ング・グループ | 藤 井 康 行 | 住友信託銀行 年金研究センター 制度研究部長 兼 主席研究員 | |
| 保険ワーキング・グ ループ | 谷 本 康 典 | 日本生命保険 調査部国際計理基準対策部長 | |
| | 花 澤 敏 行 | 損保ジャパン 執行役員国際企画部長 | |
| 金融商品ワーキング・ グループ | 佐 藤 嘉 雄 | 有限責任監査法人トーマツ パートナー | |
| | 高 橋 昌 久 | 三菱東京 UFJ 銀行 欧州本部 欧州企画部 上席調査役 | |
| 財務諸表表示ワーキ ング・グループ | 八 重 倉 孝 | 法政大学 経営学部教授 | |
| | 山 田 浩 史 | パナソニック 理事・東京支社経理グループグ ループマネージャー | |
| 減損に関する Expert Advisory Panel | 武 藤 知 樹 | 三菱東京 UFJ 銀行 融資企画部 上席調査役 | |
| IASB 客員研究員 | 竹 村 光 広 | ASBJ 専門研究員 | 9 月末まで派遣 法人所得税プロ ジェクトを担当 |
| | 坂 口 和 宏 | ASBJ 研究員 | 近く、派遣予定 |
| | 吉 村 健 一 | ASBJ 研究員 | 近く、派遣予定 |
| FASB 国際研究員 | 川 西 安 喜 | ASBJ 客員研究員 | 概念フレームワ ーク、非継続事業 プロジェクト等 を担当 |

も踏まえると、中長期的視野に立って、オール・ジャパンとして、会計人材の育成、特に国際的な会計人材の育成を計画的かつ組織的に取り組むことが喫緊の課題であると考えられる。

会計人材の対象は、監査人、財務諸表作成者、財務諸表利用者、学識経験者と幅広い層が考えられるが、育成という観点からは、市場関係者である監査人、財務諸表作成者、財務諸表利用者を主たる対象とすることが考えられる。また、中長期的視点からの取組みである点を踏まえると、30代前半から30代後半の若い世代を中心とした者に対して、各市場関係者における教育に加えて、会計基準開発に関する専門知識や英語力の向上を柱とした年代別の育成プログラムを提供していくことが考えられる。そして、企業会計基準委員会（ASBJ）やIASB等への出向を通じた研鑽も、このプログラムの中の1つとして位置付けることが考えられる（次頁の図表2参照）。年代別の人材イメージは、次頁の図表3のとおりである。

一方、国内の基準開発に向けた対応に関しては、市場関係者における教育を通じた能力開発に依るといった側面が国際的な人材開発よりも強いと考えられるが、これについてもASBJへの出向を含め、我が国の企業会計関係の中核を担う者を中長期的視野に立って育成していくことも重要な取組みであると考えられる。

4 会計人材開発タスク・フォースの設置

当財団（財務会計基準機構）では、このような認識に基づき、組織運営の見直しの一環として、国際的な対応力の強化とともに、中長期的

観点からの会計人材の育成を重点項目と位置付け、市場関係者や関係当局の協力を得て、取り組むこととした。

具体的には、今年8月に日本公認会計士協会、日本経済団体連合会、日本証券アナリスト協会、大手監査法人、IASB理事経験者等を交えた会計人材開発タスク・フォースを当財団内に立ち上げ、検討に着手した。

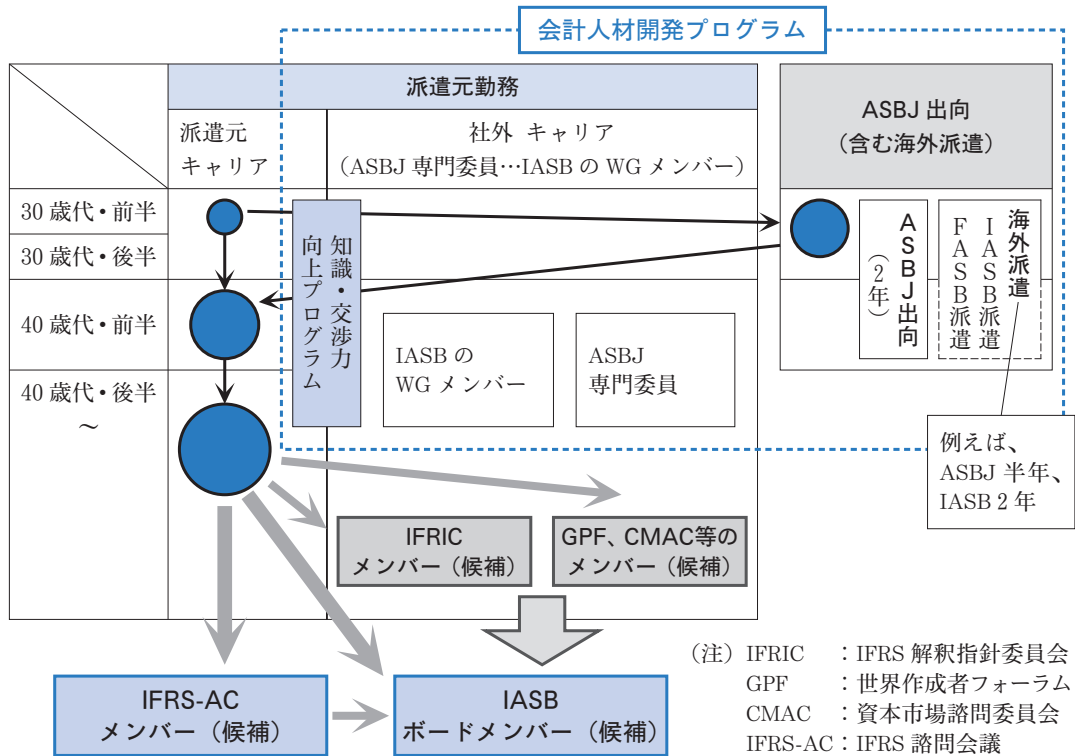
当タスク・フォースでは、まず、会計人材、特に国際的な会計人材の育成のための方策について審議を行い、今年秋を目途に会計人材育成プログラムを策定することを目指している。プログラムの実行後は適宜フォローアップを行い、必要に応じて見直しを行っていくことも想定している。そして、当タスク・フォースの取組みが、我が国の会計人材、特に国際的な会計人材の育成の一助となることを期待するものである。

5 おわりに

金融資本市場がグローバル化に対応し、市場の透明性を向上させるとともに、企業の資金調達の効率化、円滑化を図り、もって日本へ投資を呼び込む環境整備を進めることが日本の国力アップにつながるものと考えられる。また、国際社会における日本の立ち位置を踏まえた取組みを強化することも重要である。

その一環として、5年先、10年先、日本人が国際的な会計基準開発の場などの国際舞台で重要な地位を確保できるよう、会計人材の育成に向けた取組みについて、関係者のご理解とご協力を切にお願いする次第である。

(図表 2) 国際的な会計人材の育成に向けてのイメージ



(図表 3) 年代別の会計人材イメージ

| 年 代 | IASB における活動等との関係 | 具体的な内容 | 求められる資質 |
|---------|---|--------------------------------------|---|
| 30 代前半 | <ul style="list-style-type: none"> IASB にスタッフとして派遣 NSS (各国基準設定主体会議) WSS (世界会計基準設定主体会議) 等の各種国際会議への随行参加 | 国際的な基準開発状況の把握 | 英語力 基礎的な会計知識 (概念フレームワークを含む) |
| 30 代後半 | <ul style="list-style-type: none"> IASB でのプロジェクト・マネージャー候補 NSS (各国基準設定主体会議) WSS (世界会計基準設定主体会議) 等の各種国際会議への参加 | 国際的な基準開発への貢献 | 英語力 基準開発のノウハウ |
| 40 代前半 | <ul style="list-style-type: none"> IASB のディレクター候補 IASB の主催するワーキング等へのメンバーとしての参加 | 国際的な基準開発へのより深い貢献 | 洗練された英語力 基準開発のノウハウ 折衝力 |
| 40 代後半~ | <ul style="list-style-type: none"> IASB のボードメンバー候補 IFRS 解釈指針委員会メンバー候補 IFRS 諮問会議のメンバー候補 ASBJ のボードメンバー候補 (国際担当) | 日本の状況を踏まえた主張を行うとともに、国際的な基準開発へのより深い貢献 | 洗練された英語力 基準開発のノウハウ 折衝力 日本の市場関係者とのコミュニケーション |